

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	人が使いこなす公共空間の共創：「リビングラボ」指宿 による市民参加型デザインプロセスの展開
助成事業者	鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻
代表者	木方十根

(目的)

指宿市では指宿港海岸整備事業が進捗しているが、護岸堤や導流堤、海岸施設と市街地の間の緑地帯の整備など、人が身近に関わる施設の計画・施工段階に入る。その整備を地域の活性化に結び付けるためには、新たに創出される公共空間を「人が使いこなす」ことができるようにデザインすることが必要である。

本活動では、事業が予定される現地において原寸模型を設置したシミュレーションなどの市民参加型の社会実験を行い、施設デザインを様々なステークホルダーと共に探り創造（共創）する。

(概要)

本活動では、上記の目的のため、下記の二つの活動を実践した。

1) 学生による海岸緑地帯と後背市街地の活性化の提案。および提案過程、成果発表におけるワークショップを通じた市民および行政職員による助言・提言

・平成 30 年 10 月から 11 月にかけて、「砂浜と共によみがえる街」と題して鹿児島大学工学部建築学科学生の参加により、指宿港海岸緑地帯および後背市街地の活性化計画のアイデア提案を行った。

・10/5 に現地調査、10/6 に調査を踏まえた問題設定のワークショップを市民と行政職員の参加により、指宿市役所にて行った。

・11/22 には指宿市ふれあいプラザなのはな館において 48 点の提案の発表を行い、市民および行政職員の参加による講評会を行った。

2) 逆瀬川導流堤上部工の市民参加型デザイン

・来年度着工が予定されている逆瀬川導流堤について「人が使いこなす」ことができるようなデザインを検討した。

・原案を 3D デジタルモデリングにより作成し、3D プリンタにより縮尺 1/20 の 3D モデルを出力した。

・3D 出力モデルに基づき原案を再検討し、微修正を加えた案につき、平成 31 年 2 月 16 日に、小学生を含む指宿市民の参加より原寸模型を作成した。

・作成した原寸模型は指宿港海岸整備ワークショップでも公開し、市民に実際に手を触れてもらい、良い点や改良点などを確認した。

・ワークショップでの意見を反映し、最終案の調整を行った。